

暮春ぼしゆんの月、吉野よしのの離宮とつみやに幸いでます時に、中納言
大伴おほとも卿のまへつきみ、勅みことを奉りて作る歌一首并あはせ
て短歌

三一五番

み吉野よしのの 吉野よしのの宮みやは 山やまからし 貴たふとくあらし
川かはからし さやけくあらし 天地あめつちと 長ながく久ひさしく
万代よろづよに 変かはらずあらむ 行幸いでましの宮みや

反はん
歌か

三一六番

昔見むかしみし 象きさの小川をがはを 今見いまみれば いよよさやけく
なりにけるかも